

令和7年度研修医奨励賞受賞者が決定

新潟県医師会では若手医師が医師会活動への理解を深め、今後医師会として取り組むべき課題や対策について考える機会を与えることを目的として研修医奨励賞を行っている。令和7年度も審査の結果、以下のとおり受賞者が決定した。令和8年度の募集案内は本年11月頃、県医師会報および県医ホームページに掲載の予定である。今後も多数の応募をお願いしたい。

研修医奨励賞最優秀賞（10万円×1件）

○田 中 雄 大（厚生連柏崎総合医療センター）

「医療を俯瞰する目を養う臨床研修の実装 - 県内研修医ワークショップの意義とその可能性 -」

研修医奨励賞優秀賞（7万円×3件）

○大 石 裕 人（新潟市民病院）

「医師会は地域医療の苦境を支える調整者となれるか？」

○岩 男 茄 奈（下越病院）

「研修医の経験に基づく医師の進路選択と総合診療医育成への提言」

○名古屋 美 月（長岡赤十字病院）

「研修医の視点から考える新潟県の医師不足と持続可能な医療体制」

研修医奨励賞（3万円×6件）

○明 利 憲 尚（厚生連長岡中央総合病院）

「医療制度の限界と今後の地域医療」

○藤 澤 智 彦（長岡赤十字病院）

「地域医療情報連携ネットワークの普及を目指して - 一研修医が考える」

○大 島 ゆ り（厚生連長岡中央総合病院）

「地域医療研修を経て感じたこと」

○杉 本 凌太郎（厚生連村上総合病院）

「医師不足の本質はどこにあるのか：臨床研修で見えた地域医療の価値と、その継承の課題」

○志 村 優 至（厚生連村上総合病院）

「診察室の外から見た新潟の魅力 - 誇りと生きがいに満ちた地域を目指して -」

○品 田 悠 介（新潟県立新発田病院）

「新潟県における医療機関の集約と分散の課題について」

（敬 称 略）